

専門医制度に関する説明会

サブスペ要件作成WGメンバー：

石原卓（WG長）、坂本謙一、柴徳生、石田悠志、宮村能子

JSPHO専門医制度委員会：

富澤大輔（担当理事）、長谷川大輔（委員長）

（順不同、敬称略）

2025年3月3日、3月27日 WEB会議

専門医制度の概要

項目	内容
専門医の名称・領域	小児がん専門医（日本小児血液・がん学会が担当）
専門医制度の目的	小児がん領域の専門医を育成し、質の高い医療を提供することで、小児がん診療の水準向上を目指す
基本領域	日本小児科学会（小児科専門医）

専門医制度の概要

項目	内容
対象疾患	白血病、悪性リンパ腫など血液腫瘍疾患、小児固形腫瘍 ※非悪性疾患で同種造血細胞移植を行った症例も含む
専門医認定基準 (認定試験あり)	• 研修期間中に定められた症例数を経験すること • CLIC受講が必須 • 本学会指定の学会・セミナーに出席し合計100単位以上を取得すること • 本学会学術集会への2回以上の参加が必須であること • 学会発表3件（うち筆頭演者として1件以上）、論文3編（うち筆頭著者1編以上）の学術業績を有すること
指導医認定基準	• 申請時点で5年以上の小児がん専門医歴があること • 通算10年以上小児がんの臨床および研究に従事していること • 本学会が指定する学会・セミナーへの参加実績があり、直近5年間に5回以上の学会発表（共同演者を含む）、および小児血液・がん関連の筆頭論文5件を有すること（論文掲載時期は問わない）

専門医新規申請の必要症例数（細則第8条の改訂案）

1. 造血器腫瘍：**10例以上**、固形腫瘍：**10例以上**
2. かつ上記および同種造血細胞移植症例の**合計が25例以上**とする。なお**同種造血細胞移植を施行した症例については、非悪性疾患を5例まで加えることを認める。**
3. 個別症例票の15例には、以下の疾患を各1例以上含めること。
急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、悪性リンパ腫、小児外科腫瘍(神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、胚細胞腫瘍のうち一つ)、骨軟部腫瘍、脳腫瘍、同種造血幹細胞移植症例

専門医制度の概要

項目	内容
研修施設要件	• 小児がん診療用病床および小児がん専門外来を設置していること • 小児がん専門医が常勤で1名以上在籍していること • 臨床研究の実施、緩和ケア、および療養支援・教育支援を含む家族支援体制などを備えた施設であること • 認定研修施設（親施設）は指導医が1名以上常勤で在籍し、関連研修施設（子施設）との間で専門医研修施設群を形成すること • 学会が定める研修カリキュラムを作成し、施設群内で共有・運用する体制を整備すること • 小児がんカンファランスを定期的に行い、議事録を作成・保存すること • 小児がんあるいは造血細胞移植に関わる学会発表あるいは論文発表が3年間で合計3つ以上あること

研修施設カリキュラム作成のための到達目標 「小児がん専門医 研修カリキュラム」



小児血液・がん専門医研修到達目標 第2版
2021年7月31日

日本小児血液・がん学会

小児血液・がん専門医 研修到達目標 第2版

2021年7月31日 第2版

目次（大項目）

- I. 血液
 - (1). 総論
 - (2). 赤血球
 - (3). 白血球

「小児がん専門医 研修カリキュラム」へ改訂

改訂版（小児がん専門医 研修カリキュラム）

- I. 血液
 - 1. 総論
 - 2. 赤血球
 - 3. 白血球
 - 4. 免疫異常
 - 5. 止血
- II. 小児腫瘍がん
 - 1. 総論
 - 2. 造血器腫瘍
 - 3. 固形腫瘍
 - 4. 脳脊髄腫瘍
 - 5. 支持療法・支援
- III. トータルケア
 - 1. チーム医療
 - 2. 説明と同意
 - 3. 患者・家族支援
 - 4. 緩和医療
 - 5. 終末期医療
- IV. 輸血
- V. 造血細胞移植
- VI. 倫理・研究

専門医制度（資格更新要件）の概要

項目	内容
必要な診療実績	直近5年間に小児がん症例20例以上を診断および治療した経験
学会・講習参加	指定された学会・セミナー（例：日本小児血液・がん学会、ASCO、SIOP、日本癌学会）に出席し、合計100単位以上を取得
学術業績	- 小児がん関連の学会発表3件（筆頭演者・共同演者を問わず） - 査読のある学術論文3編（筆頭著者・共著を問わず）
特例措置	妊娠・出産・育児・病気・留学等の正当な理由がある場合、専門医資格更新に一定の配慮あり

基本的に現行を踏襲する方針で調整（細則「第11条（専門医資格の更新申請手続き）」）

小児がん専門医のキャリア形成（例）

